

会 議 録

会 議 名		第 74 回 八王子市ごみゼロ社会推進協議会				
日 時		令和7年(2025 年) 5月 22 日(木)	開始	午後 2 時 00 分	終了	午後 3 時 30 分
場 所		本庁舎 8 階 801 会議室				
出席者	委 員	石井委員、守屋委員、住村委員、田頭委員、平澤委員、 矢島委員、佐怒賀委員、伊藤奈美江委員、伊藤洋史委員、 黒木委員 以上 10 名				
	事務局等	岡田資源循環部長、森田ごみ減量対策課長、河内廃棄物対策課 長、橋本清掃施設整備課長、青木ごみ総合相談センター所長、林 戸吹清掃事業所長、枝根館清掃事業所長、熊澤戸吹クリーンセン ター所長兼館クリーンセンター所長 【ごみ減量対策課】白鳥主査、小岩井主査、岩崎主査、清水主任、 森田(亮)主任、日野主任、大神田主事、森田専門員、木下アドバ イザー 【清掃施設整備課】田中主査 【戸吹クリーンセンター】黒田課長補佐				
欠 席 者		吉田委員、嶋田委員、田野倉委員、増渕委員 以上 4 名				
議 題 等		1.議題 (1) 令和 5 年度 (2023 年度) 一般廃棄物の排出及び処理状況等 の調査結果について (2) 令和 6 年度 (2024 年度) 食品ロスに関するアンケート調査 結果報告について (3) 令和 6 年度 (2024 年度) 生ごみ資源化モデル事業について 2.その他				
公開・非公開の別		公開				
傍 聴 人		なし				

配 布 資 料	会議次第 第 74 回ごみゼロ社会推進協議会 席次表 八王子市ごみゼロ社会推進協議会 委員名簿 令和 7 年(2025 年)4 月 1 日付人事異動 資料 1 令和5年度(2023 年度)一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査結果について 資料2 令和6年度(2024 年度)食品ロスに関するアンケート調査結果報告 資料3 令和6年度(2024 年度)生ごみ資源化モデル事業について
1 議題 (1)令和5年度(2023 年度)一般廃棄物の排出及び処理状況等の調査結果について 【意見、質疑応答等】 委員：昨年度から石川市民センターでダンボール等紙資源の回収が行われているが、事業者にも周知されているか。 市：3月に事業者向けの紙資源持ち込み場所を石川市民センターに設置し、4月から運用開始したところである。周辺の事業者に対し、チラシをポスティングするなどして周知し、現在登録している事業者は 40 社程度である。 委員：近くに企業がたくさんあるので、ぜひ活用してもらえればと思っている。 委員：事業者の一人であるが、自分で持ち込める場所があることを全く知らなかった。現在設置されているのは石川だけか。どこに情報を取りに行けばいいのか。 市：市内には他に7箇所あり、少量排出事業系ごみの収集制度の登録をいただいた際に案内をしている。また、事業者から紙の処理について相談を受けた際にもお知らせしている。 委員：事業者側から情報を取りにいかないと、たどり着くのは難しいということか。不動産業をやっているので、顧客に対し少量排出事業系の案内はしていたが、自分で持ち込める場所があることを知らなかった。 市：ストックスペースは主に中小の事業者を対象としている。実際には大型の物置を設置しており、大規模の事業者が持ち込むと量が多くて溢れてしまうので、そちらは自己処理をお願いしている。中小の事業者に紹介していただけるとありがたい。 市：八王子市としては、待っていてもこれ以上のリサイクルが進まない。発信の仕方や周知の方法に問題があると思うので、産業振興部や商工会議所等と連携して、もう少し案内が届くよう改善していきたい。 委員：石川市民センターでやっているのに、横山南ではやっていないのか。 市：横山地区周辺では、館事務所に設置している。周知方法については検討したい。	

委員：飲食業の委員の事業所では、どのように処理しているのか。

委員：事業系として業者と契約し、費用をかけて回収してもらっている。

委員：リサイクル率を出しているが、どの品目のリサイクル量が一番多いか。

市：重さでいうと、古紙が一番多く、その中で雑誌・雑紙が約7,500トン、ダンボールが約5,000トン回収されている。容器包装プラスチックは約6,000トンである。

委員：市はこれを売り払いしていると思うが、この売り上げを増やすことで、指定収集袋の値段を上げずに済むのか。

市：売り払いをしており、ペットボトルで年間約1～2億円の収入がある。現状では袋の値上げは考えていない。資源循環部でゴミ処理にかかる費用のうち、半分くらいは資源物の売り払い収入や、指定収集袋の収入で賄っている状態である。

委員：回収にかかる費用が上がっていると思うが、どうか。

市：収集運搬の経費については、労務費単価や燃料費が上昇しているので、委託費用も上がっている。できるだけ資源物の回収量を増やし、歳入を増やすよう努めていきたい。また、資源化する品目により単価はまちまちで、変動するので、市場価格が反映される。

委員：前回から委員になったが、ゴミ処理基本計画を読んで、1人1日当たりで必要なゴミ削減量が約18gとなっていたので、我が家の生ゴミの重さを量り、茶殻やコーヒーかすを庭に埋め、町会の会合でも話した。その時思ったのが、小さい子供はこういうことに興味があるのではないか。夏休みの自由研究で家のごみを量り、どうやって減らせるか考えようとか、やってもいい。これからの世代のお子さんこそ問題意識を持って取り組めるのではないか。また、前回の議題にあった廃食油の回収について、イトーヨーカドーで回収ボトルをもらってきたが、町会で話したところ、店舗の近くに住んでいるのに知らない方が多かった。市はやっているというが、市民は知らなかったということが多い。

市：ご意見ありがとうございます。我々がもっと頑張って周知しないといけない。

委員：市内に18か所の市民センターがあり、横山南では市民センター祭りの際に館清掃事業所に来てもらい、ゴミの啓発tentを出している。いずれ全ての市民センターに広げたいと考えている。子供から大人まで、そういうものを見れば、だんだんわかってくると思うし、小中学校でそういう勉強会を開くことができればいいと思う。

市：夏休みの宿題でゴミを減らしていこうという発想は、これまでなかった。ただ、学校に負担をかけるわけにはいけないので、家庭に協力をお願いすることになると思う。

市：学校でゴミについて学ぶという話があったが、小学校4年生が環境教育を学ぶ学年になっており、清掃事業所が外向いてゴミの分別やリサイクルについて啓発を行っている。

(2)令和6年度（2024年度）食品ロスに関するアンケート調査結果報告について

【意見、質疑応答等】

委員：アンケートの項目がよく考えられていると感じた。大人向けのアンケートのようだが、小学4年生対象で環境教育を行う際は、どのような内容をやっているのか。

市：先日、第十小学校で4年生対象に出前講座を実施した際は、食品ロスについて、家庭でできることや、野菜などの普段なら捨ててしまう部分も料理で活用できるといった話をした。子どもから親御さんに少しでも伝わればと思っている。

市：館クリーンセンターでは、令和6年度で小学生4年生の見学が20校で1,600人くらい来ており、保育園児も多数来ている。児童や園児は「すごくいっぱいごみがある」という感想が多い。小学生や園児にごみを少なくしてねと伝えるのは難しいが、家から出るごみが集まると、こんなにいっぱいになり、減量が大切だという認識をもってくれていると思う。

委員：大学の学食ではかなりの食品ロスが出ていると思う。曜日によって利用者の数が違うし、キッチンカーも来ているが、雨の日は全然売れないなど、天候にも左右される。他にも、一人暮らしをしている大学生が多いが、帰省するタイミングで冷蔵庫の食品を全部捨てるという話を聞くので、そういうところを改善できたらいいと感じている。

委員：市役所の食堂はテーブルごとに「え、それ残すの…」と書いた食品ロスの啓発シールが貼られている。そういうのを広めていくのはどうか。

委員：シールを見たことはないが、すごくいいと思う。

市：シールは、市内で完食応援店に登録した飲食店に配布している。

委員：大学に配布したらどうか。

市：飲食店でなくても登録している団体があるので、そういった需要やお届けできるタイミングがあれば、検討していきたい。

委員：資源循環部として、まず大学から動いたらどうか。

市：このシールは東京造形大学と市がコラボして作成したもので、作成した際には東京造形大学の学食や市役所の食堂に貼らせていただいた。

市：積極的に、速やかに対応していく。

委員：神奈川の大学に通っているが、自分の大学の学食では、食堂で使われているトレイに食品ロスの啓発や広告等のシールが貼ってある。トレイにも貼れるようなシールを大学に配れば、周知しやすいのではないか。

委員：館クリーンセンターに見学に行った際、ごみ処理に年間1人当たり1万9千円の経費がかかっていると聞いたが、1日当たりに割って示すと、小学4年生でも自分のお小遣いと比べて身近に感じるのではないか。

委員：先程の資料説明の中で、食品ロスの量は事業系よりも一般家庭の方が多いと話していたが、どのくらいの割合なのか。

市：令和5年度のデータだが、八王子市全体で一般家庭の食品ロスが約9千トンで、事業系が約5千トンである。

委員：事業者は利益を得るために食品ロスを減らす努力をしている。企業イメージにも影響する。実は一般家庭の食品ロスが多いということをもっと周知すべきではないか。アンケートも母数が少なく、食品ロスを 98%が知っていて、賞味期限と消費期限の違いを 97%が知っているとは信じがたい。このデータを信じてみんな知っていると思ってしまうと、方向性を見誤ってしまうのではないか。

委員：アンケートは二次元コードでやったのか。

市：ウェブで行っており、性別や年代も聞いているので分析はできる。

委員：食品ロスの削減に関して、具体的なアイデアを募集して紹介してはどうか。災害備蓄用の乾パンやアルファ化米も期限間近のものが配られることがあるが、活用するアイデアを広げていくといい。

市：ごみの分別アプリを活用して啓発できる部分もある。昨年度には(株)キューピーと連携してエコサラダレシピを開発し、紹介したりした。啓発の仕方をしっかり研究したい。

(3) 令和6年度(2024 年度)生ごみ資源化モデル事業について

【意見、質疑応答等】

委員：資料にある家庭用生ごみ処理機の購入費補助制度とは何か。

市：ダンボールコンポストは指定の場所で購入すれば販売価格の4分の3を補助している。生ごみ処理機については、電気式でないものに購入費用の2分の1を補助している。

委員：生ごみ処理機はどこで売っているのか。また、申請に期限はあるのか。

市：ホームセンター等でご自身で購入していただき、購入後に申請いただく流れになる。申請期限は購入から1年以内で、補助額の上限は2万円となっている。年度ごとに予算を確保しており、予算の範囲で補助している。

委員：出来上がったたい肥はどのように使われるのか。農家に行くのか。

市：基本はご自身で使っていただくが、ダンボールコンポストについては集合住宅等にお住いで使い道がない方については、市で回収を行い、富士森公園等で活用している。

2 その他

【全般について質疑応答】

委員：ニュースでリチウムイオン電池による火災を見たが、出し方のルールの再確認と、収集で苦労していることを伺いたい。

市：市ではリチウムイオン電池を取り外せない製品や、モバイルバッテリーは令和4年度から全て有害ごみとして集めている。困っていることとしては、未だに不燃ごみに入ってくることがあり、パッカー車で回収したときに圧縮されて火災になったり、不燃物処理センターでも発火し、ぼやになることが時々ある。

市：館クリーンセンターでは、月に数件発火したという報告がある。監視カメラで確認し、すぐに消火して大事に至っていないが、圧力をかけると発火するため、気を付けている。

委員：膨張したリチウムイオン電池は有害ごみとして出して大丈夫か。

市 : 有害ごみとして出して大丈夫である。有害ごみは天蓋車で回収しており、圧縮しないで回収している。

市 : 清掃事業所では、中身の残っているスプレー缶は事業所に連絡をもらい職員が回収している。膨らんだりリチウムイオン電池を出すのが不安なら、同じように事業所に連絡をもらえれば、直接回収に伺うこともできる。

市 : このメンバーでこれだけ知らない方がいるということは、56万人の市民にはもっと知られていない。周知の仕方を考えていきたい。

【市からお知らせ】

市 : 今週末の日曜日にみんなのまちの清掃デーを実施する。ぜひご参加いただきたい。

市 : 次回のごみゼロ社会推進協議会は、10月23日(木)14時から館清掃事業所で開催する。会議後、館クリーンセンターの見学を予定している。